

民間亦器械工業の發達を企つるも、其主要原料たる鐵材の自給無くして如何てか完全の獨立發達を企圖すへけんや。一朝時局の轉回して外國の原料鐵材を遮斷したりと假定せよ眞に寒心に堪えざるにあらずや。

終りに國風一首を添ふ

## 鐵

白かねや黄かね赤かね數はあれと

御國の盾とたのむ黒かね

## 造船用鋼材騰貴の趨勢

湊 一 磨

## 目次

## 一 總說

二 英國に於ける鋼材の需給並價格騰貴の狀況

三 米國に於ける鋼材の需給並價格騰貴の狀況

四 英國より日本への鋼材運貨騰貴の狀況

## 五 結論

一 總 說

歐洲戰亂勃發後間もなく内地に於ける一二造船所は將來に於て造船用鋼材料の供給を受くる事困難なるへきを豫想して見越買を爲したる事實ありしか如きも、大正四年二月頃迄は新造船の注文未だ旺盛ならず、鋼材の價格も亦甚たしき騰貴を示さざりしか、爾來新造船の注文續發して造船材料の需要俄に増加し、戰爭前に於て一噸當り八十五圓乃至九十圓なりしもの、大正四年二月頃には九十圓となり、爾來漸次騰貴して遂に十一月初旬には百五十五圓の高價を唱ふるに至り、更に其後百八十五圓の相場ありしと聞くに至り、これを二月の價格に比するに實に六割乃至九割六分の騰貴となり、鋼材一噸當り百數十圓の價格は全く未曾有の高價なるか、尙ほ今後の趨勢は益々其騰貴を示すのみにして抵止する處を知らざる如き現狀なり、今其騰貴の主因を攻究するに、全く近時我國への鋼材供給國たる英米に於ける鋼材價格の騰貴と、運送費の暴騰との二者に因らすんはあらざるなり。左に項を分ち英米に於ける鋼材の需給並價格騰貴の狀況及運賃騰貴の狀況につき其大要を記述し、以て過去を明にし、將來に資せんとす。

二 英國に於ける鋼材の需給並價格騰貴の狀況

大正四年一月以降英蘭ミッドルスボローに於ける造船材料一噸當り價格は左表の通にして、十月下旬の價格を一月の價格に比するに一割八分の騰貴を示せり。

月 日

造船用鋼山形材

造船用鋼板

英 貨

邦貨に換算

英 貨

邦貨に換算

一月下旬ヨリ

八、〇五・〇〇志片

八二・五〇円

八、一〇・〇〇志片

八五・〇〇円

三月中旬ニ至ル

九、〇五・〇〇

九二・五〇

九、一〇・〇〇

九五・〇〇

三月下旬ヨリ

九、〇五・〇〇

九二・五〇

九、一〇・〇〇

九五・〇〇

五月下旬ニ至ル

九、一五・〇〇

九七・五〇

一〇、〇〇・〇〇

一〇〇・〇〇

六月三日

造船用鋼材騰貴の趨勢

六月十日	九、〇五・〇	九、二五〇	九、一〇・〇	九五五・〇〇
六月中旬ヨリ 九月初旬ニ至ル	九、一五・〇	九七・五〇	一〇、〇〇・〇	一〇〇〇・〇〇
九月十四日	九、一七・六	九八・七五	一〇、〇〇・〇	一〇〇〇・〇〇
九月下旬ヨリ 十月下旬ニ至ル	九、一五・〇	九七・五〇	一〇、〇〇・〇	一〇〇〇・〇〇

備考 英貨一磅を邦貨十圓として換算す

右價格の騰貴及英國に於ける鋼材需給關係の大勢を調査するに、一月初旬より二月末日迄は殆ど何等の變動なく、三月に入り稍々價格騰貴の氣配を示したるか、同下旬に至りて一躍一磅の騰貴となり、五月初旬に於ては多少價格の下落を氣構へたる向きありたるも、漸次在庫品の缺乏を來したるに依り却て上向きの氣配を示し、曩に英政府が鐵鋼材の輸出につき一々政府の許可を受くるを要する旨發布したるも、伊太利への輸出を除外せる爲此方面への輸出要求は却て増加し、其外英政府及歐洲各交戰國よりの注文輻輳の爲民間よりの注文は漸次後廻しにせらるゝ有様となり、六月中旬に於て英國各製鋼業者は一齊に殆ど總ての形材に對し一噸につき一志方價格の引上げを決議するに至れり。

七八月に入り各工場は殆ど全部英政府及各交戰國よりの軍用註文品の製作に追はるゝこととなり、國內に於ける一般商品及輸出品は殆ど製作の餘地なく、八月初旬の狀況を記載する雜誌エンヂニヤリングの記事に各工場の日曜日休業は仕事の進行上尠からざる苦痛を感ずるに至れり、とあるを以て見るも漸次急迫せる状態を窺ふに足るへし、斯くて九月以降各壓延工場は愈々多忙を極め、一般商品及輸出品の製造は引續き拒絶しつつあるを以て、注文甚た困難なる状態にて今日に及へり。

### 三 米國に於ける鋼材の需給並價格騰貴の狀況

大正四年一月以降米合衆國ピツバークに於ける形鋼の一噸當り價格は左表の通にして十一月の

價格を二月の價格に比するに三割の騰貴を示せり。

形鋼材

月日	米貨	邦貨ニ換算
二月	二五弗七六仙	五一・五二 <sup>円</sup>
三月	二五弗七六仙	五一・五二
四月	二六弗九〇仙	五三・八〇
五月	二八弗	五六・〇〇
六月	二八弗 先物二九弗一二仙	五六・〇〇 五八・二四
七月	二八弗 先物二九弗一二仙	五六・〇〇 五八・二四
八月	三〇弗二四仙	六〇・四八
九月	三一弗三六仙	六二・七二
十月	三二弗四八仙	六四・九六
十一月	三三弗六〇仙	六七・二〇

備考 一、米貨一弗を邦貨二圓として換算す

二、右價格を英國ミッドルスポロに於ける價格に比するに著しき差異あるも、ピツパグは紐育を距る約四百四十哩の内地にあるものにして、紐育迄の運送費を加算するときは紐育に於ける價格は前記のものより遙に高さものとなるへし。

右價格の騰貴及米國に於ける鋼材需給關係の大勢を調査するに、大正三年十二月各製鋼會社の操業率は全生産力に對し僅々三割五分に相當するに過ぎざりしか、大正四年一月に入り操業率は四割五分となり爾來毎月累進して九月以降各製鋼會社は其全力を注ぎて操業しつゝある有様なり。

一月以降各月に於ける操業率の累進狀況は左表に示すか如し。

年 月	操業率
大正三年十二月	三割五分
大正四年一月	四割五分
同 二月	六割乃至六割五分
同 三月	六割五分
同 四月	七割
同 五月	八割
大正四年六月	八割
同 七月	八割五分
同 八月	九割五分
同 九月	十割
同 十月	十割

カーネギー會社九割五分  
近のバーミル十割

大正四年一月に於て前年十二月に比し工程を増加せるは、是れ需要の増加に伴ひたるものにあらずして、寧ろ漸次減少せる在庫品を充實する爲に過ぎざりしか、二月に入り需要者稍々買進みて各製鋼會社の操業率増加し一時に活況を呈したるも、此好況か三月中も繼續すへきやは多少疑問とせられ景況稍々鎮靜に傾きたるか、四年に入り米國に於ける滿俺鐵の貯藏大に減少せるのみならず、滿俺鐵の供給不如意の爲、其後英國との商談纏まり英國より輸入しつゝあり、鋼材の價格漸次引締り、四月に入りては米國各鐵道會社よりの軌條の注文及露國よりの軍需品の注文輻輳して漸次操業率を増加し、五月に入りて操業率は八割に急進し、鋼材の市況は豫想外の發展を示し、價格は一噸につき一弗以上の騰貴を示すに至れり、之れ一は米國內各鐵道會社の注文多額なると、一は露國より數十萬噸の鋼材(軌條銃身及砲身材貨車等を含む)の注文ありたるに因るものなり、五月中に於ける鐵及鋼の輸出額は全生産力の一割五分に相當し、此勢にて進まば遂に生産力は勞力供給不如意の爲制限を加えらるへきを豫想せらるゝに至れり。

六月に於ける鋼鐵の産額及輸出額は五月に比し更に著しく増加し、輸出向注文甚た多くして漸次

船腹の不足を告ぐるに至り、六月十四日カーネギー會社は其低き相場を全部撤回したるを以て、其他の大會社も之に倣ひて漸次高値を報し、先物の價格一封度につき一三〇仙(一噸につき二九弗一二仙)を唱ふるに至れり、七月に入りては漸次品薄となり、カーネギー會社及ビツバーグ附近の大製鋼會社は操業率九割五分乃至十割を示すに至り、遂に八月中旬鋼錒平鋼形鋼共一噸につき一弗方の騰貴を唱へ、價格一封度につき一三五仙、一噸につき三〇弗二四仙を示すに至り、各工場の操業率は殆ど十割に達せり、

過去數ヶ月間に於て鐵及鋼の輸出額が漸次増加せる大勢を見るに左表の如し。

大正三年一月より七月迄の平均一ヶ月當	一三七、〇〇〇噸	大正四年七月	—
大正四年五月	二六三、六四九噸	同	八月
同	三五六、八二九噸	同	九月
			六〇〇、〇〇〇噸

九月中旬の狀況を記載する雜誌エンヂニヤリングの記事に、近日三十萬乃至三十五萬噸の鋼材(塊鋼錒等を含む)の輸出契約成立すべく、又本週中に五十萬噸の引合ありて、内二十萬乃至三十萬噸は佛國よりの軍需品なりとあるに據るも、九月中旬に於て既に製鋼業が漸次急迫せることを證するに足るへし、而して九月下旬に至りては各地共在庫品の缺乏を告げ、又車臺の不足は著しく石炭の搬出を遲滞せしめて製鋼業愈々急迫に赴き、爾來鋼材の需要益々増加して、各製鋼會社は非常の繁忙を極め、遂に十一月初旬米合衆國鋼鐵輸出會社は當分の内鋼材の新規註文を引受けざる旨發表するに至れり。

#### 四 英米より日本への鋼材運賃騰貴の狀況

開戦以來獨逸船の閉息、各交戰國船舶の軍事徵發擊沈、破壊等の爲、大正四年三四月頃に於て既に世界的海運界の全船腹は之を戰時前に比し約三割以上の減退を示したること、其當時の各方面の調査

報告に依りて明かなる處なるか、爾來船腹の減少を來すへき前記各種の原因間斷なく續發し、更に今夏以來北海並に地中海に獨逸潛航艇の出沒頻繁なること、並に九月初旬以降巴奈馬運河閉塞せること等は世界的航路の變更及延長を來たし、爲に一層船腹の有効率を減少せしめ、亦一方に於て各交戰國軍需品の運送は容量の大なると航程の遠隔なることにより著しく船腹の需要を増加し、兩々相俟て愈々船腹の不足を告ぐるに至り、隨て海運賃の暴騰を示すに至れり。

今英米より日本への鐵鋼材料の運賃騰貴の狀況を見るに、英國東海岸より日本迄の運賃左表の如し。

月次	英貨	邦貨に換算
一月以降	二七志六片	一三圓七五錢
九月下旬	三〇志に騰貴	一五圓に騰貴
十一月初旬	四〇志に騰貴	二〇圓に騰貴

備考 英貨一志を邦貨五十錢として換算す

最近に至りては六十志(三十圓)の呼聲ありたるも、船腹不足の爲單に空値に過ぎざりし由なり。米國紐育より日本迄の運賃は巴奈馬・蘇西又は喜望峰を經由すると貨物の多寡とに依り多少相違し、且一般に先物の契約多き爲契約の時期如何に依り運賃の高低一樣ならざるも、米合衆國鐵鋼輸出會社の特約率の騰貴の狀況を見るに左表の如し。

月次	英貨	邦貨に換算
六月、七月積	四六志三片	二三・一二五
八月、九月積	五一志三片	二五・六二五
十月、十一月、十二月積	五六志三片	二八・一二五

七月上旬契約翌年四月以後積

七〇志

三五〇〇〇

七月下旬契約九月、十月積

六〇志乃至六五志

三〇〇〇〇乃至三二五〇〇

八月上旬契約八月、九月積

五五志

二七五〇〇

九月中旬契約十月積

七〇志

三五〇〇〇

備考 英貨一志を邦貨五十錢として換算す。

にして十一月中旬新契約に對しては米貨二十五弗邦貨に換算すれば五十圓を課することとなりたる由にて、過般諸新聞か米國よりの鐵鋼材の運賃百志乃至百十志に騰貴せりと報したるも事實に近きを知るへし。

之を要するに最近の運賃は英國日本間に於て、大正四年一月に比し四割五分乃至十一割八分の騰貴を示し、米國日本間に於て六月に比し五割二分乃至十一割六分の騰貴を示し、更に今後益々騰貴して其抵止する處を知らざる如き趨勢なり。

### 五 結 論

最近英米に於ける鋼材價格及英米よりの運賃騰貴の狀況は前陳の通にして、今其騰貴率を表示すれば左の如し。

英國 材 料

米 國 材 料

原 價 騰 貴 率

一月に比し一割八分

一月に比し三割

運 賃 騰 貴 率

一月に比し四割五分乃至十一割八分

六月に比し五割二分乃至二割六分

是に由て觀れば最近日本に於ける造船用鋼材の價格又は呼値か一月に比し六割乃至九割六分の騰貴を示せるは、英米に於ける鋼材價格の騰貴に因るは勿論なるも、更に大なる影響を來したるは實に運賃の騰貴に基因するものなるを知るへし。



英米に於ける鋼材需給關係、價格竝に運賃騰貴の趨勢は前記の通なるに、更に最近八坂丸建國丸等の擊沈は愈々地中海の危険を證し、歐州航船は喜望峯を迂回するの已むなきに至り、又巴奈馬運河は尙當分開通の見込み立たざる爲、唯さへ船腹不足の今日益々船腹の不足を來たしたるを以て、假に英米本國に於ける鋼材の製出に餘裕ありとするも、非常の高價を仕拂ふにあらされは之を入手すること能はざるに、まして英米に於ける製鋼界は未曾の繁忙を極めつゝあること前述の如く、而して此勢は今後益々昂進する見込なるを以て、現今の形勢を打破一變せしむべき何等かの現象出現せざる限り、今後我國に於ける鋼材の價格は益々騰貴して供給愈々困難に陥るものと覺悟せざる可からず。

翻て我國造船業の現況を見るに、古今未曾有の活況を呈し、目下建造中及計畫中の總噸數千噸以上の船舶實に百一隻四十四萬餘噸に及び、尙新造註文續發しつゝありて、近き將來に於ける海上發展の偉大なる潛勢力を示しつゝあるに、此際鋼材の供給困難なる爲拱手する如きは國家の損失之より大なるはなく、當事者の窮境之に如くものなし、然れとも今は徒に悲觀すべき時機にあらず、吾人は禍を轉して福と爲すの覺悟を以て、此千歳一遇の好機に際し最大努力を以て鋼材自給の途を開き、以て軍事的に、將た經濟的に、造船業の獨立を期せざる可からざることを切に思ふて已まざるなり。